

第 18 回企画運営委員会(オンライン)議事録案

文責:坪井由実

- 日時:2024 年 12 月 17 日(火)午後 7 時 30 分～9 時
- 出席者=植田、濱田、日向、松林、宮下、後山、宇野、坪井、藤田、武者、山沢

I. 第 17 回記録(案、HP に暫定的に掲載中)の承認【資料は省略、HP の以下の URL を参照 https://drive.google.com/file/d/1OFqHKZS2wq5m-aySPivyTYpVBpq_ggnr/view

II. 報告事項

(1)第 17 回(2024.10.7)以降～2024.12.17 までの活動記録

- 10/16 全国交流集会報告者の事前打ち合わせ
- 10/17 保護者交流会の第 4 回準備委員会
- 10/24～25 辰野高校訪問(三者協議会の傍聴と来年 1 月の三者協議会の撮影依頼。宮下、坪井) 11/6 第 23 回全国交流集会の最終打ち合わせ(オンライン)
- 11・7～8 太平洋学園高校訪問(三者協議会の傍聴と来年 5 月の三者協議会の撮影依頼、坪井)、あわせて、高知市内で濱田、後山、坪井で奈半利中学校の撮影依頼の件などについて協議。11/16 第 23 回全国交流集会の会場下見とオンライン環境の試行(日永、日向、松林、坪井) 11/23～24 第23回「開かれた学校づくり」全国交流集会開催(1日目の参加者は総計 86 名) 12/3 保護者交流会の第 5 回準備委員会
- 12/7 第 1 回保護者交流会を開催(参加者 14 名)
- 12/11 生徒・学生交流会の第 4 回準備委員会
- 12/12～13 鳥取県南部町会見小学校訪問(新年 1 月 28 日の「ひとつの輪」会議の撮影依頼、坪井)

(2)会員へのメールニュース

- 8号 11/12 第23回全国交流集会のご案内
- 9号 11/18 全国交流集会の Zoom 接続情報等のご案内
- 10号 12/4 第 1 回保護者交流会の入室情報のご案内など

(3)本会の基本データ(新入会員、カンパ件数と総額)の推移

	前回 10.7 ま で	2 ヶ月間の増減	合計	備 考
会員数	96 名	+7	103 名	学生1, 小・高教員2, 大学教員3, 出版関係1
協賛金総額 協賛者延べ人数	153,000 円 31 名	10,000 +1	163,000 円 32 名	通帳残高 68,069 円(23 回全国交流集 会支 出 50,919 円を引くと残高 17,150 円

III. 審議事項

議題1. 第23回全国交流集会の振り返り・・・報告は日向準備委員長／坪井事務局

長 (1)全国交流集会参加者の基本データ

参加総数＝会場参加 49 名(うち高校生3名、大学生6名)＋オンライン参加者 37 名(うち学生3人、院生3人)＝合計 86名。うち会員は、約20 名。川崎市民など神奈川県民が約 25 名。東京方面約 20 名、長野県約 10 名など。

(2)参加者アンケート(40 人)・・・別紙(略)

(3)8つの視点からの「振り返り」

I. 報告、討論を通して、どこまでテーマを深めることができたか

テーマ「学校や地域において子どもの意見表明の機会をどのように保障していくか」①市民生活に直結している行政からの報告は、川崎市民でも普段聞くことがない内容と思われ、今回 の参加者にとっては行政の取り組みを「知る」ことが出来た内容だった。相模原市の報告は、日ごろ 目を瞑ってしまいがちな取り組みの紹介で、子どもの意見表明権だけでなく、生存権さえも危ない 状況下の取り組みであることを知ることが出来た。相模原市自体が平成の大合併で相模原市を中 心に 4 町が合併、その 3 年後に政令指定都市となったが、行政のさまざまな施策が市民の求めに 追いついていないように見える。

②討論の柱「学校は、意見表明の機会の確保・子どもの意見の尊重にどう取り組んでいるか」について。

川崎市の子ども参加の学校づくりの実践は、「報告型・提案型・協議型」に類別され紹介された。これに対し、児童生徒が意見表明するだけでなく、これを大人が受けとめ、児童生徒と一緒に考えて方 策を見出していく双方向の対話的実践の積み重ねが大切との指摘があった。また、旭丘高校の全学 協議会での生徒参加はそうした双方向の実践報告であった。そして、中学まで不登校であった生徒 たちは、自分たちの意見を親身に聴いてもらえる場所がこの学校にはあり、自分の「居場所」といえ ると発言。また、川崎市の市民からは、児童が委員として参加して学校運営協議会をしているとの報 告もあり、注目された。

③討論の柱「学校、地域は、声をあげにくい子どもの意見を、どう聴き、応答、支援しているか」につい ては、菅沼報告と杉山報告の実践が示唆的であった。学校教師は、学校の外に居場所を見出してい る子どもたちに接する中で、学校における自分の実践と、いまの「学校文化(良い子は学校へ通うの が当たり前という支配的価値観)」を問い直していくことが大切とする問題提起があった。

④討論の柱「自治体は子ども施策に、子どもと保護者の意見を反映させるためにどうしているか」につい て、佐藤報告は、まず、条例制定は、子どもが生活している基礎自治体にしかできない役割で ある とした。そして、「こども・若者の“声”募集箱」、「川崎市こども会議」「川崎市人権オンブズパー ソン条 例」に基づく相談・救済活動、子どもが安心して意見を言えるための支援として『うんこドリ ル 子 ど も の 権 利 』の広報・啓発などの実践が報告され、いずれについても、参加者からは大変参考 になると 評価されていた。

II. 午前のシンポジウムと午後の討論、交流の構成、実践報告の構成、時間配分、オプション・プログラ ムなどについて

①神奈川集会では、偶然にも県北東部(川崎市)、北西部(相模原市)、南西部(小田原市)の事例を取り 上げた。川崎市の多様な取り組みだけよりも、良かったと思う。

- ②昨年は実践報告について質疑と交流の時間が少なかったが、今年は討議の時間を長くし、司会のうまさもあって、「居場所」について高校生の意見を引き出し深めたり、川崎市夢パークや寺子屋の実践についてオンラインで報告していただくなど、議論を深めることができたと思う。
- ③オプション・プログラムでは、名古屋市立菊里高校のように、学校の教育課程関係予算(公費)により、教師(会員)が数名の生徒を引率し参加するとともに、大東学園の生徒と交流会をもつなどの創造的な取り組みも実現した。菊里高校の生徒たちは「三者協議会」を直接観察できただけでなく、生徒間交流もできたようで、オプション・プログラムは有効に活用されていたといえる。
- ④シンポでは、学校の厳しく重たい現実が浮き彫りにされたが、翌日の大東学園高校の公開研究会では、学校の可能性、良さが実感できてよかった。
- ⑤子ども参加の実践報告の内容として、学校カリキュラム(授業づくり)の面もあっても良かった。

Ⅲ. 対面とオンラインによる開催、特にオンラインの環境整備はどうであったか。①ミーティング・オウルの使用は、運営委員の負担軽減のためでもあったが、オンライン参加の方々からもおおむね好評であった。ただ、聞取りにくい箇所もあったようで、ミーティング・オウル専用のマイクを補充できるのが望ましい。なお、今回は、事務局の日永さんのオウルを利用させていただいた。②会場の発言者は所定の場所まで出てきていただくこととなった。ミーティング・オウルで対応できるのはせいぜい 70~80 人程度であり、それを超えた場合は、異なったオンライン環境整備が必要だろう。

Ⅳ. 開催時期、会場について

- ①時期的には各種研究会などの開催時期や高校の募集時期と重なった。準備期間を半年と考えると、10 月以降開催となるのは致し方ないだろう。
- ②会場は、公共施設を活用した。市民や市民団体以外にも貸し出す施設だったのが幸いした。当初予定していた学校施設よりも使い勝手が良かったのではないかと思う。

Ⅴ. 当日の全国交流集会、懇親会を通して、全国の実践交流を深めることができたか ①懇親会の参加者は 14 名。かつては教職員組合の活動としての参加が主であったが、現在は個人参加が多く、準備委員を中心とした打ち上げ、慰労会の性格が強くなっている。日頃、オンラインで打ち合わせを行っていることもあり、準備委員の対面での交流の場として懇親会は有効な場だと思う。

Ⅵ. 財政面ではどうであったかー収入支出報告書(略)

- ①資料代 500 円は適切な料金だろう。領収証の準備ができていなかった点は反省。結局、後日、希望された 8 名には郵送した。
- ②報告者等に昼食とお茶(ペットボトル)を用意したのも良かった。
- ③川崎市の 2 つの報告、各務原の報告、旭丘高校の報告、2 人の指定討論者、いずれについても、報告の依頼を兼ねた事前打ち合わせの交通費と謝金(川崎市の二人を除く、5 人)、高校生 3 人への交通費実費支給については科研を利用し、その旨、報告集に記載させていただいた。

Ⅶ. 準備・運営体制について

- ①現地実行委員会の立ち上げができなかったことは、実務的なことを担う人員不足となっ

た。②オンラインによる事前打ち合わせは、今後も続けていきたい。

③事前に報告資料も提出していただき、参加者には事前に閲覧、印刷できるようにした。

Ⅷ. 宣伝活動について

①カラー・チラシは、準備委員が手分けして印刷したため、結果的に時間と費用が相当かかった。印刷枚数は、1,600 部ほどとなり、郵送料も相当かかった。これらは、現地の準備委員会を組織できなかったこととも関係している。また、チラシの印刷は、1,000 部を超えるようであれば、業者に委託したほうが安いので、来年以降は検討したい。

②今回は、以下のような機関に郵送した。実際にこのチラシをみて参加した人は10名程度に限られるが、それなりの意義はあるように思われるがどうだろうか。

川崎市教職員組合(200 枚)／神奈川県教職員組合(200 枚)／川崎市教職員連絡会(全教、60 枚)／神奈川私教連(200 枚)／川崎市子どもの権利フォーラム(110 枚)／神奈川弁護士会子どもの権利委員会(10 枚)／県下の 33 市町村教育委員会(19 市 13 町 1 村)と、県下 33 の市町村首長部局の子どもの権利担当部課／私教連の保護者など 300 枚／全生研の研究集会で 150 枚配布。総計約 1,600 枚

③川崎市のネットによるインフォメーションコーナーを利用して宣伝した

④昨年度の全国交流集会参加登録者約 60 名へメールでチラシを送付した

⑤今回は、地元新聞社への連絡は時間的余裕がなくできなかった。

議題2. 第1回保護者交流会(12月7日開催)の振り返り・・・報告は、細野準備委員長 総勢 14 名の参加で、当初の内容を変更して実施した。総括については 1 月中旬に実施する予定なので、次回の企画委員会で報告します。

議題3 第2回生徒学生交流会(2025 年 3 月 8 日開催予定)の準備状況・・・報告は松林準備委員長 第2回「生徒・学生交流会」第4回準備委員会 まとめ 2024.12.11(水) 参加者 宇野・柿澤・春日・柴田・松林・宮下・森田・吉野・和田

1 第2回生徒・学生交流会

(1)期日 3月8日(土)10:00～12:30

(2)開催方法 ZOOM によるオンライン

高校生は ZOOM が使えるか → ZOOM は web アプリでできる(チラシにQRコード)

(3)第一部 三者協議会など生徒による学校づくりの実践報告 1 団体 25 分(報告 20 分)

・大東学園高校(東京) 三者協議会！！

・菊里高校(名古屋) 生徒・教員の意見交換会(私服併用の話題を中心に) ★生

徒会役員に報告を依頼

→ 実務に関わった人や傍聴参加者も誘ってね

しゃべり場で登場してもらうのも歓迎

(4)第二部 テーマ別意見交流(しゃべり場) 時間を十分取りたい(最短 1 時間)

1)テーマ

・参加者募集の段階では、テーマ例を示す

例 生徒会活動・校則・いじめ・不登校・授業・学校行事

その他、普段思っていること・悩んでいること・・・

・事前に「しゃべりたいこと」についてアンケートを取り、当日に活かす

2)生徒だけでなく、学生も含めての交流の場とする。

<参考>

・第1回生徒・学生交流会のテーマ（高校生の参加人数）

①生徒会活動・校則（3）

②生徒会活動・いじめ・不登校（2～3）

③生徒会活動・授業・学校行事・進路指導・進路選択（1～2）

・第1回生徒学生交流会・あいち交流会での話題（一部）

行事にスマホの利用を認めさせたい 生徒会の役員と一般生徒をつなぐ 新し

い部活を作るには 行事に関すること（新しい行事を作るには）

2 参加者の呼びかけ SNSの利用について

(1)インスタグラムのアカウントを作成してみました。

●印は解決策を教えてくださいか修正をお願いします。

・開かれた学校づくり生徒学生交流会

・「スタバ」と「大谷翔平」のフォローは削除しました。

・プロフィールを投稿しました。

・「第1回生徒・学生交流会」のチラシを投稿しました。

●画像を 1080px×1920px に変更して投稿したのですが、一部しか閲覧できない
(画像ファイルと元になったPDFファイルを添付します)

→身近な高校生にフォロワーになってもらい

菊里・大東学園・こちらから直に呼びかける団体

(2)チラシの作成

・担当者 柿澤・春日・1月上旬まで(1/13(月))のあいち集会で配りたい・掲

載内容

・第1回のチラシを基準にする

日時 2025年3月8日(土)10:00～12:30

内容 第一部(前半) 生徒による学校づくりの実践報告

・大東学園高校(東京) 三者協議会

・名古屋市立菊里高校 生徒・教員の意見交換会(私服併用を中心に)

第二部(後半) テーマ別交流

・テーマ例

生徒会活動・校則・いじめ・不登校・授業・学校行事・進路選択 申し込み方法

Google form QRコード・URLを付ける

インスタのDMの案内

インスタのフォローのお願い

(3)呼び掛け校 愛知県・長野県以外の学校についての情報を今週中にお知らせください(氏名略)

・開かれた学校づくりあいち交流集会への参加呼び掛け校

- ・長野県の高校
- ・開かれた学校づくり全国交流集会関係

青森県立三沢高校／東大付属中高校／法政大学中高校／和歌山粉河高校／和歌山東高校／太平洋学園高校／奈半利中学校 神奈川旭丘高校

3 その他

(1)高校生が、ZOOMが使えるか

ZOOMは web アプリでできる チラシにQRコードを付ける

＊ 今後の予定

・第5回準備委員会 2月中旬 1月中旬に「調整さん」で日程調整

■議題4 三者協議会紹介ビデオ制作への協力校の確保状況

<小学校の部>

鳥取県南部町立会見小学校の「ひとつのわ」会議(2025年1月28日<火>開催)←12月12日に会見 小学校を訪問し、生田久枝校長並びに南部町教育委員会の福田範史教育長の了解を得ました。また、滋賀県近江八幡市立 S 小学校の取り組みについて撮影可能性を追求することとした。<中学校の部>

奈半利町立奈半利中学校の三者会(2025 年 2 月 8 日<土>開催)←2025年1月 14 日(火)に、濱田と坪井が、奈半利中学校並びに教育委員会を訪問し、坂井孝吏校長と、濱内恵一教育長に依頼します。

<高校の部>

- ①長野県辰野高等学校の三者協議会(2025 年 1 月 24 日<金>開催)←10/24 に、宮下、坪井の2人で訪問し、茶城啓二校長の許可を得ました。
- ②太平洋高等学校の三者協議会(2025 年5月開催)←11 月 7 日に、坪井が訪問し、藤田毅副校長に 同席いただき、三富祥校長の了承を得ました。

(大東学園高等学校は学校独自に5分の三者協議会紹介ビデオを制作しており、You Tubu で閲覧可能)

■参考:紹介ビデオの概要

①タイトル:「三者(四者)協議会ってなァにー『開かれた学校づくり』全国連絡会がめざす児童生徒参加の 学校づくり」

②制作者:「開かれた学校づくり」全国連絡会編集「三者協議会等紹介録画」制作チーム ③制作期間:2年とし、2026 年 3 月完成をめざす。2024 年度(1年目)は小・中・高の三者協議会の実 際のビデオ撮りとインタビュー。2年目はビデオの編集と解説。

④主な内容(40～50 分版)・・・候補校は主に過去2年間の全国連絡会の活動に協力いただいた学校。ビデオ撮りは、三者協議会の様子だけでなく、児童会・生徒会、保護者会、教職員会、校

長、教育 委員会などへのインタビューを含む。

はじめに(1 分)

①小学校編(10～15 分)・・・候補校＝鳥取県南部町立会見小学校など

②中学校編(10～15 分)・・・候補校＝高知県奈半利町立奈半利中学校など

③高校編(10～15 分)・・・候補校＝長野県辰野高校／東京都大東学園高校／高知県太平洋学園高校など

④解説・まとめ(5 分)

■議題5「研究者会員」についての「会則」改正の手続・運用と領収証について

以下の説明をもとに検討したが、審議不十分で継続審議となりました。

(1)ねらい・・・「研究者会員」制度を設け、学会や研究会の年会費と同様に、所属大学の研究費や科研費等から、年額 3,000 円程度納めていただけるようにする。こうして、積極的に連絡会の研究交流活動を推進していく。

(2)会則の改正(下線部分を加筆)と運用について

V. 会費と財政

1. 会費

(1)一般会員は会費は無料(徴収しない)

(2)研究者会員は、年会費を3,000 円とする。

集会や研究会等の必要経費は「資料代」等として参加者から徴収して賄い、企画運営委員長が管理する。また、支援カンパも受け付ける。

また、大学や日本学術振興会その他の財団等の研究費より旅費や参加費を払い、本会の研究会活動等に参加する者は、「研究者会員」として、年会費 3,000 円を納めるものとする。ただし、大学教員等であっても、当該年度に、学内外の研究費や研究助成金を得ていない者は、一般会員と同様に、会費は無料とする。

(本規定は、2024 年 12 月 17 日開催の第 17 回企画運営委員会の承認をもって、暫定的に運用し、第 4 回総会で提案、承認を受けるものとする。)

(3)研究者会員の年会費の領収証の「但し書き」について

「開かれた学校づくり」全国連絡会の 2024 年度の研究者会員会費」と記す。

■次回、第 19 回企画運営委員会の日程について

2025 年 2 月中旬でどうでしょうか